

授業改善のPDCAサイクルの確立による、 学びの質向上をめざして

シラバスと授業別ルーブリックの活用について②

高大接続・全学教育推進センター 曾根 健吾

「授業設計と成績評価ガイドライン」(以下、ガイドライン)の策定から、まもなく3年目を迎えようとしています。ガイドラインの策定以降、先生方へはガイドラインの要点をまとめたリーフレット、授業別ルーブリック作成マニュアルを配布し、教授会前FDミニシンポジウム、FDセミナーや本ニュースレター等でガイドライン

の要点やシラバス、授業別ルーブリックの活用方法などについて周知を行ってきました。今号のニュースレターでは、授業別ルーブリックの作成状況と、前号に続き授業別ルーブリックの活用方法、またシラバス、成績評価に関する学生からのアンケート結果の概要を紹介させていただきます。

シラバス上での授業別ルーブリック作成状況 (※平成28年度開講科目)

平成28年度開講科目の授業別ルーブリック作成状況は以下の通りです。全体で、作成率は43.6%となっています。作成支援のために、高大接続・全学教育推進センターでは授業別ルーブリック作成マニュアル、授業の形態を勘案したサンプルと

なるルーブリックを準備し、学務情報システム上に掲載しております。マニュアルなどをご活用いただきシラバス作成時に授業別ルーブリックを作成いただき、普段の授業においてご活用いただきますよう重ねてお願い致します。

開講科目数 (学部教育科目)	合計	3574 科目	掲載科目数 (学部教育科目)	合計	1559 科目 (43.6%)
	うち教養教育科目	1056 科目		うち教養教育科目	420 科目 (39.8%)
	うち専門教育科目	2518 科目		うち専門教育科目	1139 科目 (45.2%)

(※春学期・秋学期全体の開講科目で、ゼミ、卒研、国際交流科目含む。ただし工学部科目、教職科目を除く) ※ () のパーセンテージは開講科目に占める割合

授業別ルーブリックの活用方法

前号のニュースレターでは、授業別ルーブリックの活用方法について、レポートの採点、学生の学修への活用の2点を紹介しました。新たに、授業改善への活用について紹介します。

○授業改善への活用

授業別ルーブリックを用いて、科目ごとに学生の到達度を評価項目別に把握し、授業改善に活かすことができます。具体的

には、作成した授業別ルーブリックのマトリクスを用いて、評価項目ごとに学生の到達度(成績)を集計します。

●授業改善への授業別ルーブリック活用例 –到達度の集計–

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる(履修目標)	やや努力を要する	努力を要する(到達目標)	相当の努力を要する
授業内容の理解度	11人	30人	19人	0人	0人
課題の解法能力	5人	13人	24人	12人	6人

この例の場合は、授業内容の理解度は分布の中心が高く、分布幅が狭いことがわかります。一方で、授業内容の理解度は分布の中心が中間くらいにあり、分布幅が広いことがわかります。

このことから、授業内容の理解度は概ね高いが、課題の解法能力を高めるよう課題の出し方や課題の内容、教員からの説明などについて更に工夫が必要ではないかと考えられます。

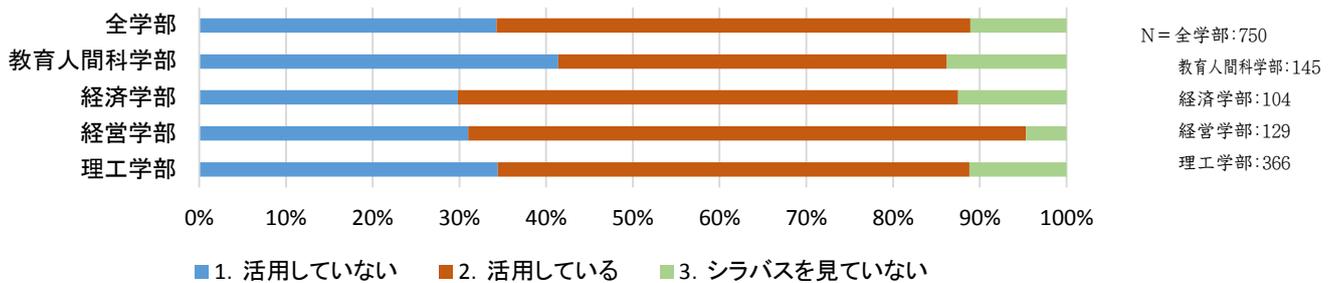
学生へのアンケート調査の結果から

ガイドラインの策定以降、先生方にはガイドラインの概要、授業別ルーブリックの活用方法などについて周知を行っているところです。一方で学修者である学生の認識はどの程度なのか、学生の認識度合いを把握するために、全学部の2～4年生を対

象として、IR学生調査に独自設問を追加する形でシラバスと成績評価に関するアンケート調査を実施しました。(調査実施時期は2016年11月中旬～12月中旬、ウェブアンケートにて実施。)

※平成28年度春学期に受講された授業、秋学期に受講されている授業全般についてお聞きします。

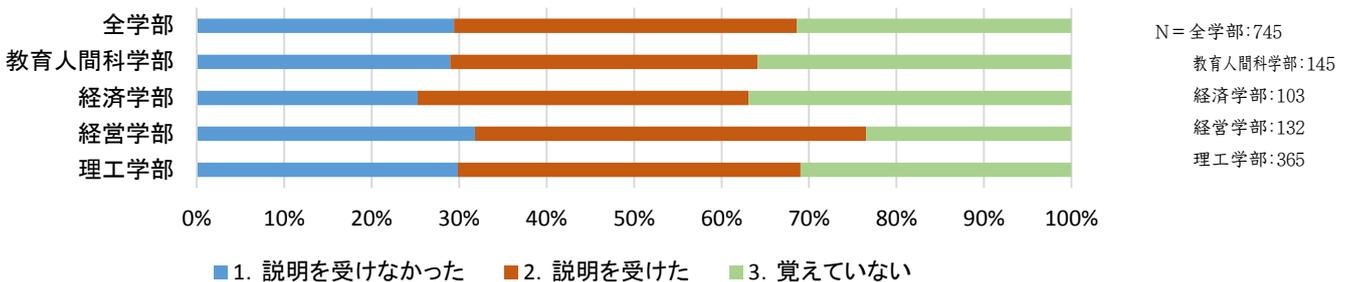
Q1. 電子シラバスに掲載されている内容を、普段の自分の学習に活用していますか。



平成27年度に電子シラバスを改修したことにより、授業時間外の学修内容の明示など内容の充実が図られ、更にシラバスを日々の学修に活用できるようになりました。全体では、学生の

約35%が活用していないと回答しており、シラバスを見ていない学生数も一定数いることがわかります。学生には普段の学びに活用できることを、更に周知する必要があると考えられます。

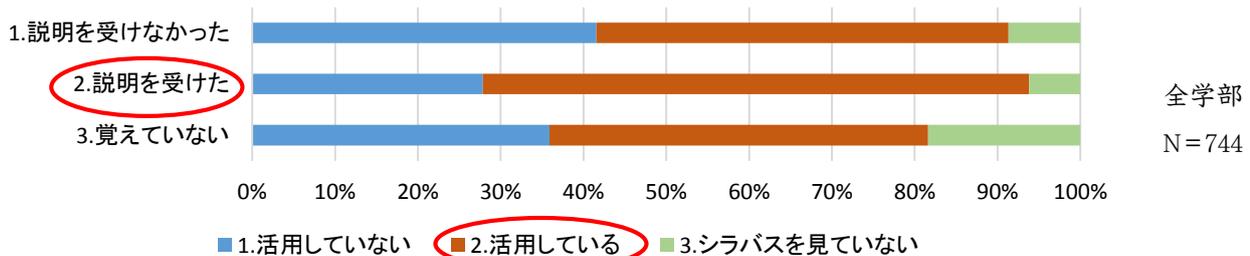
Q2. 「成績評価の基準表」と「授業別ルーブリック」について授業で教員から説明を受けましたか。



平成27年度に電子シラバスが改修され、各科目のシラバス上に全学的な「成績評価の基準表」と「授業別ルーブリック」が掲載されました。全体と各学部、学部間で大きな差異はみられませんが、「説明を受けなかった」、「覚えていない」の回答が全体で合わせて約60%となっており全体の半数を超えています。

授業別ルーブリックについては引き続き先生方に作成のお願いをしておりますが、第1回目の授業(オリエンテーション)の時や試験、課題の概要を受講学生に説明する際に、「成績評価の基準表」「授業別ルーブリック」についても合わせて説明いただきますようお願い致します。

Q1. 電子シラバスの普段の学習への活用状況と、Q2.成績評価の基準表、授業別ルーブリックについて教員から説明を受けたかどうかのクロス集計(全学部)



成績評価の基準表、授業別ルーブリックについて教員から説明を受けた学生は、説明を受けなかった、覚えていないと回答する学生層と比較して、シラバスを普段の学習に活用している

と回答する割合が高いことがわかります。このことから、教員が学生に説明することでシラバスへの関心が高まり、普段の学習への活用に一定の影響があるのではないかと考えられます。